

第12回 阪神つながり交流祭 2021

LINK～つながろう、つなげよう～

(大手前大学 さくら夙川キャンパス A棟44教室)

実施報告書

令和4年1月

つながり交流祭学生実行委員会

目次

P. 2	事業概要
P. 3	プログラム
P. 4	会場設営図
P. 4	プログラム詳細
P. 15	学生実行委員の振り返り
P. 17	アンケート結果

事業概要

1. 事業名

阪神つながり交流祭2021
LINK～つながろう、つなげよう～

2. 日時

2021年12月4日（土） 13：00～15：00

3. 場所

大手前大学 さくら夙川キャンパス A棟A44教室

4. 参加者数

129名（内オンライン参加者26）
内訳：学生発表者85（11）、企業発表者5（0）、関係者24（0）、一般参加者15（15）
※（）内はオンライン参加者

5. 目的

阪神地域の大学・短期大学の大学生で構成されるつながり交流祭学生実行委員会が企画・運営の主体となり、地域団体や事業者、商店街等と連携して実施する地域活性化活動の促進をめざしています。大学生による地域活性化活動の報告や企業による地域と連携した事例報告などを行います。

6. 主な内容

- ・開会式（13：00～）
- ・大学生による地域活性化活動の発表（13：15～）
- ・地域活性化活動を行う企業の事例報告（14：30～）
- ・閉会式（14：55～）

7. その他（当日の様子をYouTubeで限定公開）

<https://youtu.be/NfLb4rJhMNU>

※14:30～の「地域活性化活動を行う企業の事例報告」は割愛しています。
※関係者にのみ限定公開としておりますので、取り扱いにご注意ください。

主 催 つながり交流祭学生実行委員会
共 催 兵庫県阪神南県民センター
企画・運営 NPO法人コミュニティ事業支援ネット

つながり交流祭学生実行委員会（阪神まち大学「イベントプロデュースコース」）

「阪神つながり交流祭」を企画運営するため、阪神地域の複数の大学の学生から構成される組織です。阪神地域の大学・大学生による地域活性化活動の魅力を広めるイベントの開催を目的に活動しています。大学・大学生と地域が関わることの成果や課題を考え、これからの在り方を探り、阪神地域の活性化を図る企画を行っています。

阪神まち大学

阪神まち大学は、社会課題・地域課題に対して、自ら答えを導き出す力を身に付けた「社会で活躍する人財」を育成することを目的とした、NPO法人コミュニティ事業支援ネットが実施する事業です。

プログラム

13 : 00 開会

あいさつ

兵庫県阪神南県民センター長

大手前大学現代社会学部 学部長

つながり交流祭学生実行委員会学生

13 : 15 大学生による地域活性化活動の発表

- 13 : 15 園田学園女子大学 大江研究室
尼崎プロジェクト（塚口ゆめ未来プロジェクト）
- 13 : 22 園田学園女子大学 鄭舜玉研究室
尼崎市の魅力を活かした観光まちづくり
- 13 : 29 西宮・珈琲で地域活性化プロジェクト
西宮・珈琲で地域活性化プロジェクト
- 13 : 36 園田学園女子大学 松葉研究室
地域食材によるストックeatsプロジェクト
- 13 : 43 関西学院大学経済学部 栗田研究会
尼崎・甘がスキ！プロジェクト
- 13 : 50 園田学園女子大学 足立研究室
女性にとって働きやすさって何だろう
- 13 : 57 阪神まち大学 ICTプロジェクトコース
高齢者施設と家族をつなぐ～オンラインを用いた家族交流～
- 14 : 04 阪神まち大学 まちづくりプロジェクトコース
西宮子ども会との協働プロジェクト～おしをおしえて！投稿大募集！～
- 14 : 11 阪神まち大学 阪神モダニズムコース
SNSを活用した博物館のPR企画～日本でただ一つの“酒”と“さくら”のミュージアム～

14 : 30 地域活性化活動を行う企業の事例報告

- 14 : 30 尼崎信用金庫
地域貢献活動『あまちゃん・しんちゃんプロジェクト』について
- 14 : 38 阪神電気鉄道株式会社
阪神電車の沿線活性化について
- 14 : 46 株式会社ヤマサ環境エンジニアリング
環境への取り組みについて

14 : 55 あいさつ

つながり交流祭学生実行委員会

兵庫県阪神南県民センター 副センター長

15 : 00 閉会

会場設営図（座席表）

A44教室

※着席不可

座席固定式

便宜上の座席配置図であり、実際の配置は
違いがありますのでご了承ください。

国 出 女 子
大 江
研 究 室

大 手 前
海 老
森 元
ゼ ミ

阪 神 関 門 モ ダ ニ ズ ム
ま ち 大
ち づ く り
ま ち 大
I C T
関 学
栗 田
研 究 会

ス タ ッ フ
事 例 報 告
企 業
兵 庫 県

栗林
チー長

栗田
チー長

大手前
学部長

発表特観席

教卓

プログラム詳細

開会

あいさつ

兵庫県阪神南県民センター長

(写真2)

大手前大学現代社会学部 学部長

(写真3)

つながり交流祭学生実行委員会学生

(写真4)



写真1 司会の様子



写真2



写真3



写真4

大学生による地域活性化活動の発表

1. 園田学園女子大学 大江研究室

テーマ	尼崎プロジェクト（塚口ゆめ未来プロジェクト）
内 容	（A）ノベルティの製作と活用（B）動画の製作（C）開発中の冷凍食品のプロモーション（D）「居心地がよく歩きたくなる駅前空間」をつくるための社会実験の4つのグループに分かれ、阪急塚口駅前広場と塚口商店街の活性化にチャレンジしています。
担当教員	園田学園女子大学 経営学部 教授 大江 篤
連携団体	塚口商店街振興組合、尼崎市役所、森永製菓株式会社、園田学園高等学校



発表の様子



ビデオメッセージ

2. 園田学園女子大学 鄭舜玉研究室（オンライン参加）

テーマ	尼崎市の魅力を活かした観光まちづくり
内 容	地域活性化の一環として「尼崎市の魅力を活かした観光地域づくり」をテーマに、①尼崎グルメツアー②尼崎市観光ルート③尼崎市の観光お土産という3つの分野において実態調査・分析に基づいた企画を行いました。本日は、時間の関係上3つの企画から、観光ニーズを取り入れた「尼崎市の特産物を用いたお土産お菓子の提案」を報告します。
担当教員	園田学園女子大学 経営学部 准教授 鄭 舜玉 ・ 助教 丹羽 寿美子
連携団体	一般社団法人あまがさき観光局、尼崎市立歴史博物館、尼崎商工会議所



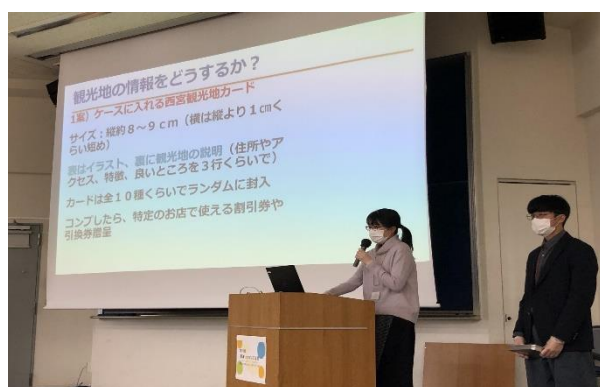
オンラインでの発表の様子



発表者への質問の様子

3. 大手前大学 海老・森元合同ゼミ

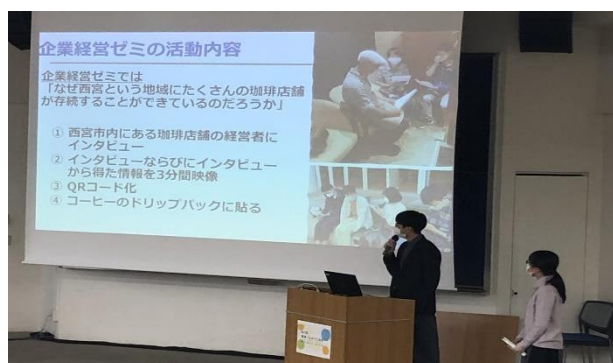
テーマ	西宮・珈琲で地域活性化プロジェクト
内 容	本活動は西宮市内の自家焙煎珈琲事業者と西宮市、西宮観光協会及び西宮商工会議所による「にしのみやコーヒーの扉プロジェクト」と大手前大学の二ゼミ合同の連携による新たな商品開発を目的とするものです。今回の発表では企業経営を学ぶ森元ゼミ生と観光ビジネスを学ぶ海老ゼミ生各々の代表者がこれまで取り組んできた活動経過を報告します。
担当教員	大手前大学 現代社会学部 准教授 海老 良平 ・ 准教授 森元 伸枝
連携団体	西宮・珈琲で地域活性化プロジェクトコーヒーの扉プロジェクト (西宮観光協会・西宮市産業文化局都市ブランド発信課・西宮商工会議所・市内の珈琲事業者)



発表の様子1



ビデオメッセージ



発表の様子2



ビデオメッセージ

4. 園田学園女子大学 松葉ゼミ Eatプロジェクト (オンライン参加)

テーマ	地産食材によるストックeatsプロジェクト
内 容	尼崎の地産食材である尼いも、田能の里いも活用について、今年度は下記の観点に着目して活動を行った。食物栄養学科で行う専門的な栄養価分析と学生が考えた学校給食用レシピ及び、防災対応のソーラークッカーを用いた秋向けの尼いもと田能の里いもの料理紹介をいたします。 ①田能の里芋の食品栄養価の分析 ②田能の里芋を粉にして、機能性の紹介 ③学生が考えた田能の里芋を用いてレシピ紹介 ④災害時に尼いも、田能の里いもをソーラークッカーを用いた秋向けの料理の紹介をいたします。
担当教員	園田学園女子大学 人間健康学部 教授 松葉 真
連携団体	尼崎都市農地再生協議会、株式会社地域環境計画研究所、尼崎商工会議所

5. 関西学院大学 経済学部 栗田研究会

テーマ	尼崎・甘がスキ！プロジェクト
内 容	甘い尼崎を目指して創り始めた雑誌『甘尼』も今年度で4・5号を出版することになります。尼崎で100年以上前から商売を営む100年企業を特集した4号と、コロナ禍で苦しみ尼崎の居酒屋を応援するために居酒屋50選と銘打った5号の特集内容を中心に、次年度の活動に向けての豊富や4号のスピノフ企画でもある尼崎城での展示会報告などを行います。
担当教員	関西学院大学 経済学部 准教授 栗田 匡相
連携団体	e.Andersen、ヒノデ阿免本舗、パティスリーアルク、吉川組、中谷機工、小倉屋居内、大貫本店、平民堂、尼崎小売酒販組合、尼崎市歴史博物館、一般社団法人あまがさき観光局など



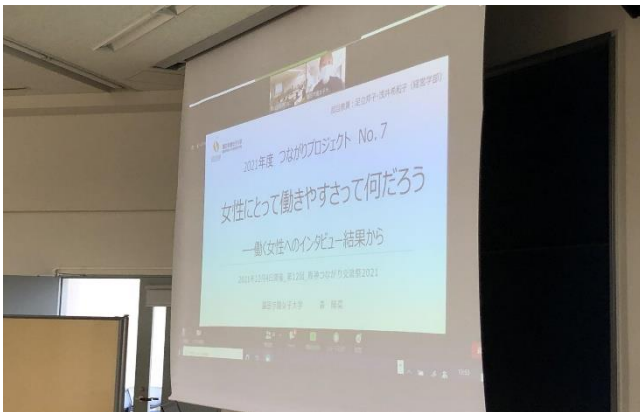
発表の様子



ビデオメッセージ

6. 園田学園女子大学 足立邦子ゼミ 女性のワークライフバランス実現プロジェクト (オンライン参加)

テーマ	女性にとって働きやすさって何だろう
内容	女性の働きやすさについて、学生が考えた質問を(株)栄水化学の女性社員の方3名にインタビューした結果をまとめて発表します。このプロジェクトでは、働く女性たちが出産や子育て、昇進などのライフステージでどのような悩みや課題を感じ、それを乗り越えたかや、それに対する会社のサポートについて語ってもらい、女性の働きやすさとは何かについて考察しました。
担当教員	園田学園女子大学 経営学部 准教授 足立 邦子 ・ 助教 浅井 希和子
連携団体	株式会社栄水化学



オンラインでの発表の様子



連携団体の方からのコメント

7. 阪神まち大学 ICTプロジェクトコース

テーマ	高齢者施設と家族をつなぐ～オンラインを用いた家族交流～
内容	高齢者施設に入居されている方とご家族の間で、ZOOM を用いた双方向型の交流を企画しました。一方的な配信にならないよう、ZOOM 講習会も行い、オンライン新年会に臨みます。コロナ禍で対面の交流が制限されながらも、つながりを維持する方法を模索しました。
連携団体	社会福祉法人きらくえん 喜楽苑



発表の様子



連携団体の方からのコメント

8. 阪神まち大学 まちづくりプロジェクトコース

テーマ	西宮子ども会との協働プロジェクト～おしをおしえて！投稿大募集！～
内容	西宮市子ども会協議会の方と一緒に、コロナ禍でも子どもが楽しめるプログラムを計画しています。子どもたちに、「好きな給食・苦手な給食」「学校の七ふしぎ」「好きな場所」「子ども会でしたいこと」についてのコメント・絵・写真を投稿してもらい、動画で紹介する予定です。
連携団体	西宮市子ども会協議会



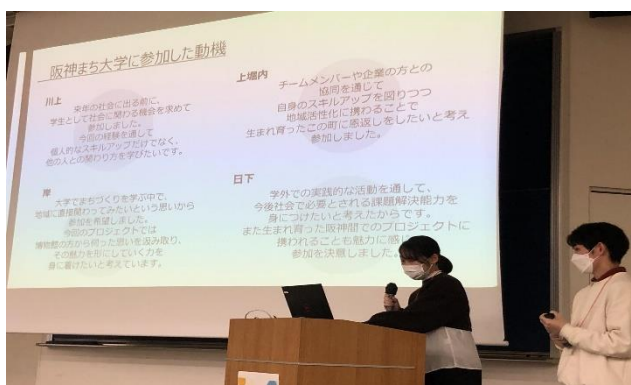
発表の様子



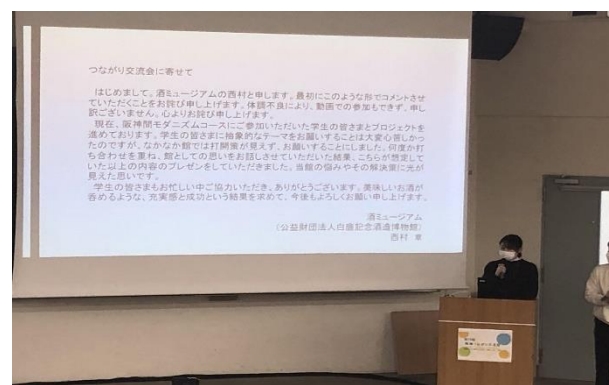
連携団体の方からのコメント

9. 阪神まち大学 阪神間モダニズムコース

テーマ	SNSを活用した博物館のPR企画～日本でただ一つの“酒”と“さくら”のミュージアム～
内容	全国で唯一の酒と桜の博物館から文化的・歴史的情報を発信するために、博物館が発信するコラム（酒トーク・桜つれづれ）のPV数を増やすことを目的に活動しています。現在、上記目的を達成するための企画・現状改善案を、博物館さんと打ち合わせを重ね、実施に向けて取り組んでいます。
連携団体	公益財団法人白鹿記念酒造博物館



発表の様子



連携団体の方からのコメント

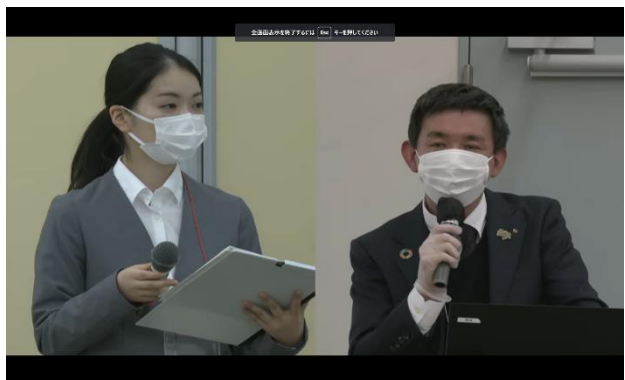
地域活性化活動を行う企業の事例報告

1. 尼崎信用金庫

テーマ	地域貢献活動『あまちゃん・しんちゃんプロジェクト』について
内容	“地域の皆さまのニーズ（地域の課題）”にお応えし、より地域との連携を深めるために「本業のひとつとして能動的に参画する活動」をめざしている“あまちゃん・しんちゃんプロジェクト”の紹介です。
連携団体	自治体・地域団体等



報告の様子



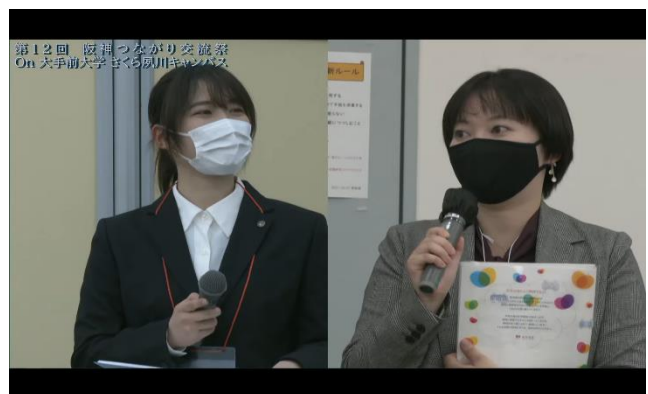
質問の様子

2. 阪神電気鉄道株式会社

テーマ	阪神電車の沿線活性化について
内容	阪神電車は自治体・大学・企業・団体など沿線地域の方々と密に連携し、協働することにより、訪れたい・住みたい沿線を目指しています。発表では、人の交流が活発になり、街の賑わいが創出されるような、コミュニティの形成・活性化に結びつくことを目的とした各種取り組みについてご紹介いたします。
連携団体	沿線の学校・自治体・企業・団体等



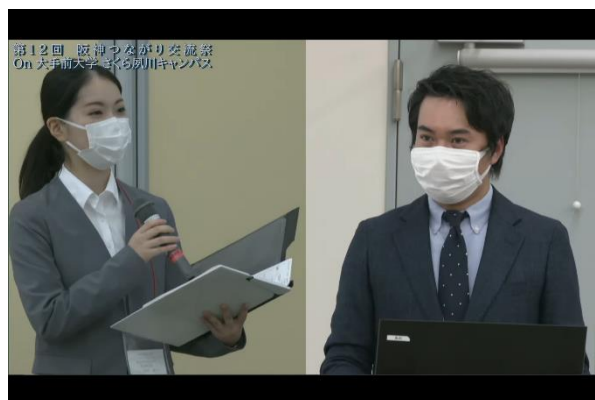
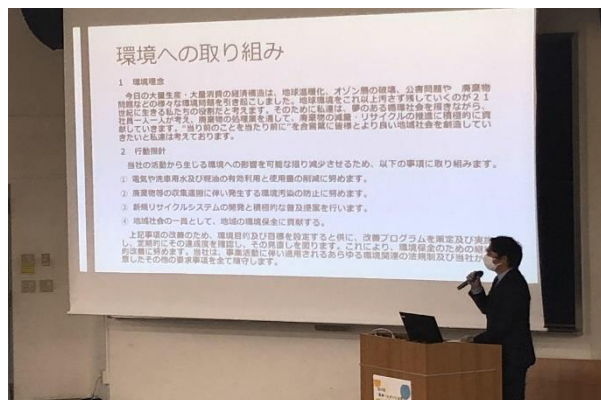
報告の様子



質問の様子

3. 株式会社ヤマサ環境エンジニアリング

テーマ	環境への取り組みについて
内 容	弊社は創業以来、地域社会に貢献することを基本理念として西宮市・伊丹市を中心に廃棄物処理業に取り組んで参りました。弊社の事業が重要な社会インフラを担っているという認識のもと、これからも地域の方に求められる企業であり続けるために、地域貢献活動を通じて地域の方とコミュニケーションを図って参ります。
連携団体	特定非営利活動法人海浜の自然環境を守る会、武庫川流域圏ネットワーク



報告の様子

質問の様子

閉会

あいさつ

兵庫県阪神南県民センター服センター長

つながり交流祭学生実行委員会学生

(写真5)

(写真6)



写真5



写真6

学生実行委員の振り返り

コンセプトを意識して企画したこと

【**CONCEPT**】 LINK～つながろう、つなげよう～

LINKという言葉は繋がり、絆、環(わ)などの意味を持っています。地域と大学や企業の交流において新たな**繋がりが継続的に続いていく**ような終わりなき環(循環)を目指しています。当イベントを通して大学生や企業が地域で行っている事例を**参加者に知ってもらう**(つながろう)。イベントがきっかけとなり、この先や将来に**交流の環を更に広げてほしい**(つなげよう)という思いを込めています。

コンセプトに基づく企画は計9個

①発表団体との事前MTG（各団体30分程度）

- ・運営側と発表側の齟齬を無くし、参加者が視聴しやすいスムーズなイベント運営を目指す
- ・どんな活動をしているのか、特に工夫している点、苦労した点、面白そうな点等のヒアリング(広報)

②スライド作成方法の統一を発表者に依頼(過去⇒現在⇒将来)

- ・発表内容を時間軸に則したスタイルで一本化する事により参加者目線で分かりやすく、将来何かつながりを創出する際に各個人が持つことになる「思い」の整理の仕方を、実例を用いることで明確にする。

③コクチーズwebやTwitterでの広報

- ・大会を認知してもらい、多くの人に交流の機会を持ってもらうため(つながろう)

④大会撮影・配信企画書

- ・オンライン参加者がずっと引きの一画面同じ映像を2時間放映だと飽きると推測し、交流祭を10シーンに大別し各シーンでの撮影・配信方法を大手前大学スタッフの方々へ打診。
- ・大手前大学さんのご協力で照明暗転やカメラ5台、テロップ編集を駆使した本格的な配信に。

⑤連携先からのショート動画/対面コメント

- ・実際の交流の中での気づきを共有して貰うことにより、地域と学生/企業間の連携意義を参加者に感じてもらう、将来の活動の種を増やす(つながろう)

⑥事前質問募集&発表時のチャットでの質問・コメント募集

- ・ハイブリット開催で質問しにくく大会が一方的に進行していくことが懸念される中、少しでも参加者側からのアクションを増やし、双方向性を担保するため。

⑦発表後代表者1名に残ってもらって司会とかけあい

- ・単調な発表会にとどめず、発表だけでは聞けないような裏話や質問等を参加者に知ってもらうため。

⑧事後アンケート

- ・参加者/発表者に大会の評価をしてもらうことで、各個人の意識下だけでなく資料として大会を振り返るものを残し、今後の交流祭の運営に役立てる然り、本来の目的である「つながり」の機会をうむ可能性を高める。

⑨動画アーカイブ

- ・大会後においても、参加者や発表者が大会を振り返る機会を創出し、今後の繋がりを広げる可能性を残すため(つながろう)

当日の感想

- ・当日は司会をしたが、時間通りに進行を進めたり、抑揚をつけて話したりということがとても難しかった。準備を入念に行ってきたつもりだったが、それでも当日うまくいかないことがたくさんあった。
- ・当日の打ち合わせの時間が全く足りなかった。物に関しての事前準備などは前日にある程度済ませていたため時間は然程かからなかったが、当日来られた映像スタッフや発表者などとの、前提のすり合わせやリハーサルの時間をもう少し多めに確保しておくべきだった。

実際にやってみてどうだったか

- ・ミーティング時間が十分に取れなかったことや自分ではいけるだろうと想定が甘かったり、スタッフ間でも理解の齟齬があったりで、当日各自の柔軟な対応に助けられることが多々あった。

今後に向けた課題

- ・オンライン発表をもう少しスムーズに行うために連絡手段をしっかりと確保しておくこと。
- ・もっと先々のことを考えて行動すること。
- ・オンライン開催であることや、機材トラブルが起こりうることを踏まえた運営にするべきだった。
- ・うまく行かなかったときを想定したB案を考えておくこと。
- ・より前もった広報計画を立てておくことなど主に計画段階で多くの課題が見つかった。

阪神つながり交流祭を通じて生まれたつながり

連携団体のコメント（学生と連携することについて）

- ・学生と連携している団体から、次のような連携に対するコメントを頂いた。
 - * 若い学生のアイデアを活かした商品を考えることができ、よい機会であった。
 - * 普段できない地場のお土産に関するアンケート調査を、学生という立場で行って頂き感謝している。
 - * 我々では考えつかない視点で動画を作ってくれたことがとてもよかった。
 - * 地域食材の新たなレシピの開発に今後も期待している。
 - * まちのイメージアップにつながっている。今後も町のよいところを発信して行ってほしい。
 - * 女性活躍推進のための制度が現状にあっているのか、若い視点の方と一緒に考える良い機会となった。
 - * 学生からZoomやLINEの使い方を教わり、コロナ禍での利用者と家族のつながりづくりに期待したい。
 - * コロナ禍での子ども会活動に新たなアイデアを頂いた。難しい注文にも答えてくれ大変感謝している。
 - * 困難な課題に対して想定以上の提案をしてくれ、解決策に光が見えた。

学生のコメント（地域や事業者と連携した経験について）

- ・地域や事業者と連携することでの学びや経験に対するコメントを頂いた。
 - * 活動を通じて社会人の方からお話を聞くことができ、将来を考えるうえでよい経験である。
 - * 通っている大学の地域を知ることができて良かった。
 - * 地域と一緒に行動は外に向けて発信されるため、責任や動画のクオリティという点でよい経験になった。
 - * 災害時の非常食や給食のレシピの開発を通じて地域に貢献できてよい経験になった。
 - * 地域の魅力発信に役立てて嬉しい。オーナーや経営者の方のコロナ対策の話聞くことはよい経験になった。
 - * 今後も機会があれば地域の企業と関わっていきたい。
 - * 高齢者施設の方々のコロナ禍の課題を知ることができた。
 - * 子どもの立場に立って考える大切さを学んだ。将来教師を目指しているがこの視点を大切にしたい。
 - * 西宮の発展に寄与してきた日本酒やそれにまつわる文化を若者に伝えるよい経験である。

過去のつながり交流祭発表学生が、企業に入って地域活性化活動に関わる活動を報告

- ・第1回阪神つながり交流祭で地域活性化活動を発表した学生が、今回（第12回）、企業が行う地域活性化活動の事例報告をして頂いた（阪神電気鉄道株式会社のご担当者様）。
- ＊事例報告の冒頭に、学生時代の地域活性化活動の経験が、現在の仕事（阪神電気鉄道株式会社の沿線活性化事業）につながっているという話があった。

つながり交流祭がきっかけとなりつながりが生まれた

- ・つながり交流祭開催後に、阪神電気鉄道株式会社と関西学院大学、並びに園田学園女子大学とのつながりが生まれたという報告があった。
- ＊関西学院大学栗田研究会と連携して、今後沿線活性化活動を模索する打ち合わせを行った。また、同研究会の制作する「甘尼」を、阪神電鉄の駅舎で配架協力するという話を進めている。
- ＊園田学園女子大学の授業に、阪神電鉄の沿線活性化事業の事例報告をする出前講座を行う打ち合わせを行った。

アンケート結果

Q. 交流祭に参加して“よかった点”を教えてください。

- ・同じような活動を行なっている学生さんのお話をお伺いして、とてもモチベーションにつながった。
- ・各大学様との連携のきっかけとなり、参加できてよかった（交流祭の後も現在、各大学様や研究室からお声がけいただき、別途意見交換の場を予定している）。
- ・他の大学のゼミなどでの活動を知ることができた上に、大勢の人の前で発表するというのが良い経験になった。
- ・他の人の発表などを聞いて新しく知れたことがたくさんあった。
- ・コロナ禍で制限がある中、素敵なイベントを開催していただきありがとうございました。来年度も是非参加させていただければと思います。よろしくお願い致します。
- ・県民センター様・こみさぼ様が見守り・サポートしながら学生が頑張っている様子が微笑ましかったです。
- ・zoomでも見やすいように会場の映像が映されてたので良かったです
- ・発表において、地域との取り組みでのさまざまな成果や課題などをわかりやすく聴かせていただきました。
- ・素晴らしい発表ばかりでした。プログラムのほとんどが発表でしたので、参加者や発表者同士のディスカッションなども聴いてみたかったです。

Q. 上の質問でそう答えた理由を教えてください。

- ・新たなつながりを感じることができたから。
- ・新たな連携が生まれるきっかけとなるため。
- ・貴重なことを知れた
- ・具体的な活動と連携が見られて各々の目的が明確だった。
- ・映像がzoomでも見やすかった
- ・聞き応えがありました。

Q. 交流祭で困ったこと・改善点を教えてください。

- ・学生発表も企業発表もベルは鳴らさず、カンペだけでもいいかなと思いました。当社は普段1時間ほどの発表・講演が多かったので、大分駆け足となってしまった点が残念でした。（スライドは事前に減らしたのですが、それでも多かったですね…）

- ・トイレ休憩の時間が欲しかった
- ・システムとして自他の本名が見える形かつ画面録画がされていたことにプライバシーの面で不安を感じた。WebExなど別のツールかZoomであってもウェビナーなどを使うことでプライバシーへの配慮が欲しかった。
- ・地に足のついた良い発表が聞けて満足しています。お疲れ様でした。
しかし、折角の良い発表なのでより多くの人に聞いて欲しいのですが申し込み情報等で手を引いた人もいます。オンラインイベントなのでから間口を広く、気軽さを全面に出すべきだと感じますが、手続きでは何に使われるか分からない住所や電話番号を登録せねばならず、イベント当日は本名を晒されるなど、「内輪」感が強いように思いました。悪質な荒らしがいるという前提が見え見えで、不愉快でした。その対策はオンラインツールの使い分けで対応できますし、今後もオンラインイベントがあるのであればオンライン向けの手続きに変えてみてはどうでしょうか。

Q.上の質問でそう答えた理由を教えてください。

- ・もう少し報告時間をいただけると、大変嬉しいです。
- ・トイレ休憩がしたかったから
- ・プライバシーへの配慮に工夫が欲しかった。
- ・ベルの説明を先に言ってほしかった
- ・運営は良かったのですが、プログラムのことで、発表に偏っているように感じました。

Q.今回、交流祭に参加しようと思った理由を教えてください。

- ・阪神南県民センターからご支援を受けているため
- ・こみさぽ様からのお声がけがあったため。
- ・関係者に直接声をかけられ、自分のスケジュールが空いていたため。
- ・地域社会との連携に興味を持っています。